



五万本の竹を切り倒して (in 夢の森)

学園長 小島 澄人

うっそうとした竹林、手入れされないで放置されてきた山に入り、枯れ木、密林化した中、中に入ることも出来ない状況でした。約2年間、一人で黙々と竹を切り倒しました。そして園舎の地面が表に現れてきました。それから3年間またまた黙々と竹を切り倒しました。日も当たらず竹林には草木の芽生えも、風も通らない程に荒れ果てていました。4年目の途中で教職員・保護者の手を借りて、夢の森の「夢ある森作り」がスタートしました。大きな竹、一本を倒すとそれを何本にも切り分け、小枝を切り取り、そして本当に大量の竹を、くぼみに並べ、または焼き、その繰り返しでした。やがて空が見え、地面にはあちこちから様々な草木の芽生えが・・・。

実は一人で黙々の作業中に私は脳梗塞で倒れてしまいました。退院後、また一人で黙々と。そしてたくさんの方々の応援が……。本当にありがとうございました。

山あり谷ありせせらぎ有り、木々に囲まれた風薫る森の「夢の森」ができあがりしました。広場作りにユンボを買い、1000本の枕木を使っての活動が始まりました。あそこに「紅葉山」を、もみじの種を植えて苗を育てていたのを山の一面に植えました。大きくなり今では立派な紅葉山です。広場の下は、柿・くり、ミカンと果樹園にしました。山の斜面には様々な遊具を手作り、また「ロングロングロングな滑り台」を、山の尾根には、調理場、ご飯を食べるテーブル、そしてピザ釜です。親父の会として、「狸の会」ができあがり、山の手入れや遊具の制作が始まりました。

谷間には水田も、餅米を毎年180キロ近く収穫し、その恵を子どもたちに・・・。

何回山の中に寝込んでしまったことか、朝から夜遅くまでの作業でした。土日は勿論、平日も毎日のように出掛けた、ある日夢中で枯れ木を運んでいると雨が降り一面湖になり、一人樹の根っこに立ったまま何時間も立ちつくしていました。私の「涙と汗」のせせらぎが今でも流れているみたいです。今はあまり見なくなりましたが、私の苦手な蛇にも何度も出会い、夏にはカブトムシに出会い、何回も狸の親子に出くわしたことか。

夢の森の「おおきくなあれ」に投稿した物に、懐かしくなり少し書くことに致しました。

「夢の森自然探検村」、まだまだその苦労は語れないほどの事ばかりですが、これから

「森はぼくらの先生だ」の心で大いに森に出掛けてください。

